IAUD Newsletter

2011.08

No.5

IAUD　Newsletter　Vol.4　第 05 号（2011 年 8 月号）目次

ポスト 3.11 に求められるデザインとは
～特集：標準化研究 WG による講演会開催報告

多様な人々の心身特性をテーマに研究し、そのデータを公開している標準化研究ワーキンググループは、東日本大震災を教訓として UD ができること、なすべきことを再認識するため、7 月 22 日（金）に日経デザインの下川一哉編集長を招いた講演会を、セイコーエプソン東京本店（東京都新宿区）で開催した。

当日は同 WG のメンバー以外にも、他の PJ 関係者や会員など約 40 名が参加。「ポスト 3.11 に求められるデザイン」をテーマに、下川氏には大震災直後からその時々に必要とされるデザインの役割の変化と実例の紹介、さらにはプロダクトデザインやデザイナーの新たな役割についてもお話いただいた。

講演会の概要と同 WG の課題を、大室誠副主査（セイコーエプソン㈱）に報告してもらった。

下川氏講演「ポスト 3. 11 に求められるデザイン」

震災後に発信されたデザイン

震災直後の混乱した状況の中では、「命を守る・生き残るためのデザイン」がとても重要です。救助活動や救援物資の輸送において、多くの道路が寸断され、ルート確認・確保のために自動車通行実績マップが有効に機能しましたが、実はこれは色弱者にとっては見分けづらい配色でした。これは、震災からいくらか経った今だから振り返ることができるものです。

もっとよくなるものとして、今後の展開に期待したいと思います。

救援物資が行き渡るようになり命をつなぐ術を得た1ヶ月後では、復興に向けた「新しい未来を築くためのデザイン」が発信されるようになりました。いつもならば、お花見のシーズンを迎える時期。社会の自粛ムードでモノが売れなくなるのを危惧したのは、被災地の方々でした。
「花は咲くのを自粛しない。ハナ・サケ・ニッポン」と東北の酒蔵が集まってメッセージを発信しました。とても骨太で生々しく、強い表現です。これは中央の大きな組織では難しいスピーディーなメッセージの発信でした。いかにスピーディーに発信するか。組織構造を見直すきっかけになったはずです。

原子力発電所の事故で一時的に輪番停電が実施され、常日頃の節電が必死となった2ヶ月後には「コミュニケーション・サインのデザイン」の問題点が見えてきました。
節電のための間引き照明が実施され、上手に間引くことで逆に機能的であったり心地よかったりすることがあります。今までが過剰に明るすぎたと思った人も多いはずです。しかし、間引いてしまうと全く機能しないデザインだったことが露呈したケースも出てきました。従来の照明は無秩序に足し算で設置されてきたため、部分的に消灯すると光が行き届かない空間ができてしまいました。
従来の足し算では限界があり、これからは引き算発想のデザインが必要といえます。

【コミュニケーションデザインで見えてきたこと】
- インフォメーショングラフィックス、サインデザイン、ピクトグラムの重要性
- カラーUDを標準化すべし
- スピーディーにデザインし公開できる仕組み
- 照明計画とコミュニケーションデザインの関係

新しいプロダクトデザイン「スマートデザイン」

日経デザインで震災による価値観の変化を調べるために 4 月上旬に「生活者が求めているモノのあり方に関するインターネット意識調査」を行ったところ、

- 個人主義・成果主義よりも助け合いの社会
- ハード重視よりもソフトやネットワーク重視
- 刹那主義でなく備えへの心構え

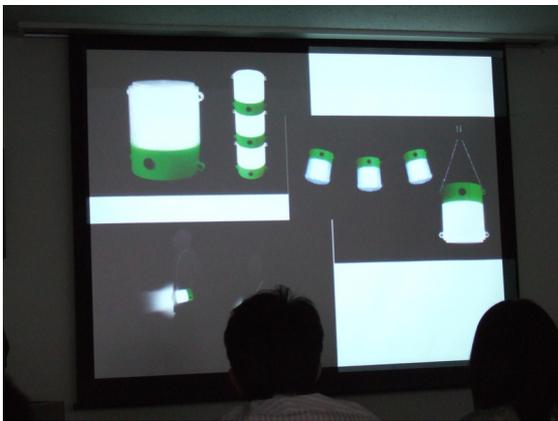
を重視する傾向が見られ、「普段の生活でも使え、災害時にも役立つような製品」が好まれるといったような震災を境に日本人の価値観が変化してきていることがわかりました。（日経デザイン5月号に掲載）
日経デザインでは、このように、「普段の生活をローコストで便利に、しかも楽しく送るとともに、不測の事態の際にも家族や自分自身の生命を守るためのデザイン」という

新たな価値観で創られた製品デザインを「スマートデザイン」と命名し、生活者が求めている新しいデザイン価値として提唱しています。
スマートデザインの 6 つの目標は以下のとおりです。

① 使い方の多様性
② 使用価値の多様性
③ 使い手の多様性
④ 作り手の多様性
⑤ エネルギーの多様性
⑥ 低い環境負荷

③の「使い手の多様性」については、まさに、ユニバーサル視点でユーザーを捉えることが重要です。是非 IAUD の皆様と今後も引き続き意見交換していきたいと思います。

【プロダクトデザインで見えてきたこと】
・ エネルギーコンシャス
・ さまざまな使い方を想定
・ 安心・安全志向
・ 市場の多様性は先進国・発展途上国では描けない

スマートデザインの実例：エネループランタン（三洋電機）

世界の無電化地域へ太陽光発電による照明を提供することをコンセプトで開発された製品。テーブルや地面に置いて使用するのはもちろん、複数台を積み上げて使用したり、本体に開けられた穴にヒモを通して高いところから吊るすこともできるし、肩や首から提げることもできます。
また、電化された地域においても停電時に食卓で使用する照明から、キャンプなどのレジャーで使用する照明まで幅広いシーンに対応できます。（日経デザイン 5 月号より抜粋）
※スマートデザインの例を数点紹介いただいたが、本稿では紙面の都合上 1 点のみ紹介。日経デザイン 8 月号では、「スマートデザイン 100 選」を掲載。

デザイナーの新しい役割について

次に、デザイナーの役割としての新しい試みを紹介します。
プライベートを保ちにくい避難所生活を強いられている被災者の方々の生活改善としてダンボール箱を加工したパーテーションを作るなど､様々な工夫で乗り越えている実情があります。こうした工夫を共有しようと「身の回りにあるものでこんなものが作れます！」を紹介した「OLIVE」というサイトがあります。

自衛官や主婦など、デザイナーでない一般生活者が手書きで寄せたアイデアを、デザイナーがより作りやすいように改良を加え、制作方法がわかりやすいイラストを添えてWEBで情報発信がおこなわれています。
従来プロのデザイナーは「モノ」に付随していたのですが、このシステムはデザイナーが一般生活者のアイデアを引き受けてブラッシュアップし、ネットを使って「モノ」から自由な状態にして流通させるという新しい動きで、ビジネス化を考える価値もあると考えられます。

【デザイナーの新しい役割として見えてきたこと】
- 誰もがデザインに参加できる
- 世界中の人々が身近な材料で作れる

これからのデザインが目指すもの

スマートデザインは、デザインの新しい体系を目指しますが、新たな産業の育成に貢献できる理論でもありたいと考えます。人々の日常生活から緊急時までを広くカバーできる価値や機能は、これまでデザインの恩恵を受けにくかった、発展途上国や過酷な環境下で生きる人々にも光明をもたらすことができます。
そこには必ず、新たな市場があり、将来のビジネスの芽があります。デザイナーだけでなく、経営者ほかビジネスマンを多く巻き込んだ議論や運動として輪を広げ、多くの人々がモノ作りに活用できるツールにしていきたいと考えます。（下川氏談　了）

標準化研究 WG として何ができるか

下川氏から投げられたデザインへの課題と提言は、個々の製品やサービスがいかにUD配慮されていたとしても、それらが相互にスムーズに連携し機能できなければ、社会全体でその価値を享受できないことを私たちに教えてくれたように感じます。
今回の震災では、日本列島は地続きなのに北と南とで電力の融通が単純にはできないシステムであることに初めて気付かされた生活者も多かったことと思います。こうした「何故？」と思われるようなことは、生活者の身近にある電化製品においてもメーカー個々に最適設計されているのが実情です。
例えば、乾電池やボタン電池は何十種類にも及び、デジタルカメラのバッテリーはメーカーや機種ごとに異なり共通で使えません。
万一の震災時において命の綱となる携帯電話の電池が切れた場合、他の電化製品の電池が使えたり、電気を出力する端子が付いていて電気を異なる製品間で融通し合えると

いったような、業種・業態に共通のエネルギーパッケージの標準化のようなことも、今後の標準化研究WGの研究テーマになるのでは、と感じました。
そして、それらのエネルギーシステムは誰もが容易に扱える形態であることによって、尊い命を守ることにつながるのではないかと思います。（了）

――

国内外UD動向

第6回北海道ユニバーサル上映映画祭 in HOKUTO 2011のご案内

健常者と障がい者が共に楽しめる「第6回北海道ユニバーサル上映映画祭 in HOKUTO 2011」（主催：北海道ユニバーサル上映映画祭実行委員会）が、9月 16日（金）から18日（日）の3日間、北海道北斗市の総合文化センターで開催されます。
この映画祭は、誰でも気軽に映画を見に行くことができるように上映映画に日本語字幕・音声ガイド（副音声）、ミュージックサイン、補聴援助システム（磁気ループ）、手話通訳、要約筆記、車いす席、託児所等を用意しています。

詳細は以下の公式サイトをご覧ください↓

http://inclusive-t.com/local/hokkaido-universal-movie/

――
次号は8月下旬発行予定
特集（予定）:
IAUD アウォード2010優秀賞を受賞した㈱NTTドコモの取り組みを紹介
特別寄稿「取扱説明書の音声対応のテキストマニュアル化」川口光男理事会相談役 他

IAUD情報交流センター（IAUDサロン）：
〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-25-9 トヨタ八丁堀ビル4 階
電話：03-5541-5846 FAX：03-5541-5847 e-mail：salon@iaud.net